

## STEMバイオメソッド株式会社【研究支援ツール】

- 本社 福岡県大野城市東大和4丁目2-1-504号
- バイオラボ 福岡県糟屋郡須恵町佐谷1705-1

- 代表者 代表取締役社長 八尋 寛司
- 設立 2006年7月7日
- 資本金 3,800万円
- 従業員 5名(臨時職員等を含める)
- 電話 本社:092-688-9055
- FAX 本社:092-688-9054
- e-mail main@stem-biomethod.co.jp
- HP-URL http://stem-biomethod.co.jp/
- 連絡担当者 本社 八尋 寛司

## 細胞培養デバイスと 受託サービスの専門企業

### 【事業概要】

バイオ研究用の細胞組織培養デバイスを中心とする研究開発・製造販売、合わせて細胞ベースの受託サービスを行っている企業です。幹細胞(ES細胞等)の培養・分化誘導や創薬・薬物代謝&毒性試験の分野で、半導体技術を用いたバイオMEMSデバイス開発と、遺伝子発現解析や免疫蛍光染色・細胞組織形態画像解析などに特化した受託サービス事業を展開しています。

### 【製品・サービス内容】

#### ■ マイクロスフェアアレイ：3次元細胞培養容器

3次元球状の細胞塊を形成するデバイスで、均一サイズで千個以上の球状細胞塊を簡単操作で形成します。ES細胞等の幹細胞や肝細胞・株化細胞を用いたメディカル基礎研究や創薬・薬物代謝・毒性試験などに使用されています。

#### ■ マイグレーションチップ：2次元細胞培養容器

1個ずつの3次元細胞塊を一定間隔で整列配置して接着させ、同心円状の2次元の細胞伸展をさせることができます。幹細胞の分化誘導、癌幹細胞研究、細胞間の相互作用、接着因子の研究などに使用されています。

#### ■ ハンギングインサートMSA：

##### 3次元ハンギング方式細胞培養容器

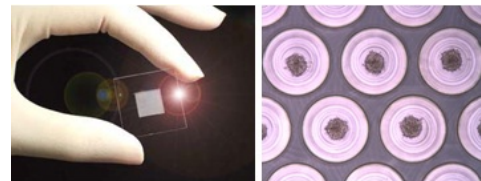
6wellプレートにハンギングして3次元細胞培養しながら、プレート底面では2次元細胞培養の共培養(コカルチャー)が可能です。液性因子の導通拡散により、パラクリンなどホルモン系、癌細胞転移や組織幹細胞・臓器間シグナル伝達などの研究と毒性細胞検査に使用されています。

#### ■ 微小孔デバイス：組織スライス培養や細胞共培養デバイス

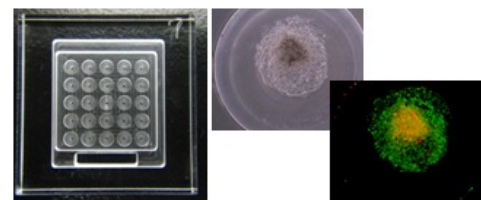
半導体製造技術を用いた $3\mu\text{m}\cdot 5\mu\text{m}\cdot 8\mu\text{m}$ サイズの貫通微小孔を多数底面に形成したデバイスで、表面に均一な高分子コーティングが可能です。組織スライス培養や皮膚組織培養など広面積のシート培養や表裏細胞共培養などに使用されています。

#### ■ ガラスボトムMSA：底面ガラス製で蛍光タイムラプスも可能

カバーガラス(板厚0.17mm)底面のマイクロスフェアアレイで、鮮明な蛍光画像をタイムラプス観察できる、100個のウェル構造をもつ3次元細胞培養容器です。接着性細胞にもコーティングを変えて対応可能です。



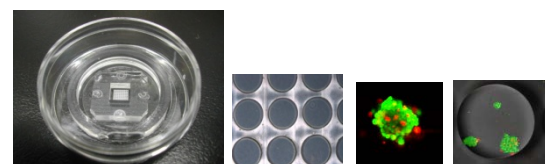
マイクロスフェアアレイと3次元細胞培養



マイグレーションチップと2次元培養&蛍光染色



ハンギングインサートMSAと微小孔デバイス



ガラスボトムMSA